

# わが

## ワンチームでまちづくり 男鹿の元気を全国へ

### なまはげの里

男鹿市は、秋田県臨海部のほぼ中央に位置し、日本海に「ゲンコツ」のような形で突き出た半島の



「秋田のウユニ塩湖」男鹿の鵜ノ崎海岸

寒風山展望台から見える鳥海山



森のグリーンが鮮やかな男鹿の水源滝の頭

ほぼ全てを市域としております。奇岩怪石の断崖と穏やかな砂浜が連なる海岸線、なだらかな稜線と芝生に覆われた山肌が美しい寒風山といった、特徴的で変化に富んだ自然が多く見られることか

ら、昭和48年に国定公園の指定を受け、コロナ禍前の令和元年度は年間250万人を超える観光客が訪れており、観光は本市の経済および産業全体に大きな役割を果たしています。

地質学的に貴重なサイトや景観は、保護・教育・持続可能な開発が一体となった考え方により管理されていることから、日本ジオパークに認定されています。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」は、子どもたちが自分の生まれた地に誇りを持つこと、そして地域の絆を強めることにもつながっており、まさに男鹿のアイデンティティーと言えます。そのほか、安土桃山時代の戦国武将、安東愛季が天正5（1577）年に大規模な修復を行い居城としたといわれ、秋田県内

でも代表的な城跡として重要な史跡となっている「脇本城跡」など、数多くの文化財を有しています。

基幹産業は、これら多様な資源を生かした観光産業のほか、稲作を中心としながら、和梨、メロン、ねぎ、花き、大豆などを生産する農業、県内最大の漁場を有する水産業です。

人口は、1955年をピークに減少を続けており、現在はピーク時の半数ほどとなっています。

### 健康づくりから地域づくり

本市は、健康寿命の延伸を目指して、市民の健康づくりを推進しております。健康教室や公民館・体育施設の活用による運動習慣の定着や、高齢者の介護予防、生活習慣病の予防などに取り組んでいます。自身の健康は幸せに生きる

原点であるとともに、この取り組みの中で、新たな仲間をつくり、楽しみや生きがいを感じることで、地域づくりにもつながります。

現状では、人口減少に歯止めがかからず、引き続き厳しい状況が続いておりますが、諦めずの一つ一つの努力を積み重ね、市民と共に心一つにして「オール男鹿」で前向きに進んで行くことが重要と考えております。

### 船川港の活性化 第3次隆盛期を目指して

国が目指す脱炭素社会の実現に



船川港湾を核とした地域産業の活性化



令和4年4月にグランドオープンした男鹿駅周辺広場

交流人口、関係人口の拡大と地域経済活性化を図ることを目的に、平成30年に複合観光施設「道の駅おが(愛称「オガール」)を整備いたしました。同時にJR男鹿駅が移転新築され、頭端式ホームとなり、男鹿マリーナ「おが

## 男鹿の元気を全国へ

向けて、秋田県沿岸においても洋上風力発電事業が進んでおります。本市では、洋上風力発電設備の建設やメンテナンスなどの一翼を担うことが期待される船川港の港湾機能の強化、事業に伴う地元企業の参入や関連産業の集積など、港湾を核とした地域産業の活性化を図るため、20年後を見据えた船川港の目指すべき将来の姿を「船川港港湾ビジョン」として策定いたしました。今後、この実現に向けて、できることからスピード感をもって取り組み、地域産業の活性化を図ります。

海の駅」を含め、三つの「駅」が男鹿駅周辺に集中しています。

オガール開業以来、男鹿駅周辺では、新たな飲食店の開業のほか、空き店舗を活用したレンタカー事業やレンタサイクル事業の開始、既存商店街の沈滞化に伴う空き店舗の増加・空洞化などの課題に取り組み、家守会社の設立など、男鹿駅周辺整備による波及効果が着実に現れてきました。

市内全域にこのにぎわいを送り込むため、旧男鹿駅舎をリノベーションした酒蔵「稲とアガベ」を含め、男鹿駅周辺広場が連続的かつ一体的なオープン空間として整備され、新しい男鹿の玄関口として大きく生まれ変わり、令和4年4月にグランドオープンいたしました。

オガールでは、本市を訪れる観光客や地元住民に新鮮な海の幸や旬の農産物などを提供しています。さらには、施設における物販・飲食提供との連携により、オガールを核とした農業・漁業・観光業の一体的な振興、雇用機会の創出、農家・漁家の所得向上および地域経済の活性化を図り、若年層や産後継者の定住環境改善および将

来的な人口減少の抑制につながるよう取り組んでいます。

新たに整備した男鹿駅周辺広場では、上下水道および電気設備を有したテントを設営し、起業者が新たな事業に挑戦できる「チャレンジ広場」と開放感のある「イベント広場」、そして大型遊具を設置した「芝生わんぱく広場」があり、新たなにぎわいを創出しています。

## プロフィール

- ◆ 面積 241.09 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 2万5410人
- ◆ 世帯数 1万2641世帯

〔将来都市像〕健康・教育・環境でみんなが夢を実現できるまち

〔まちの特徴〕ダイナミックで美しい自然に恵まれ、ナマハゲ伝説が残る伝統のまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日、若美町を編入合併



男鹿市長  
菅原広二



〔特産品〕本ズワイガニ、紅ズワイガニ、ぎばさ、マダイ、しよつぷる、石焼料理、男鹿しよつぷる焼きそば、男鹿梨、メロン

〔観光〕男鹿温泉郷、なまはげ館・男鹿真山伝承館、寒風山、鶴ノ崎海岸、男鹿水族館G.A.O.、なまはげ太鼓、雲昌寺

〔イベント〕なまはげ柴灯まつり、男鹿駅伝競走大会、日本海メロンマラソン、男鹿日本海花火、秋田船方節全国大会、男鹿のナマハゲ

男鹿にはまだまだ可能性があります。男鹿駅周辺広場から新たな人流と中心市街地におけるにぎわい・ふれあいを創出するとともに、オガールや港湾を核とした地域産業の活性化を推進し、その効果を男鹿市全域に波及させていきます。さらには、男鹿の元気を秋田に、全国に広げていけるよう、取り組みを進めてまいります。これからの男鹿にご期待ください。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 美しい山と溪谷に抱かれ、 東京に暮らす 青梅

### 全国で唯一の 「梅」がつく青梅市

青梅市は、昭和26年に市制を施行し、令和3年に70周年を迎えました。東京都の西北部にあり、都心から西へ40〜60km圏、電車で約1時間の距離にあります。秩父多摩甲斐国立公園の玄関口にあり、



環境省選定の名水百選に選ばれ、カヌーの聖地としても知られる「御岳溪谷」



500年以上の歴史を誇り、毎年約20万人が来場する「青梅大祭」

市域の6割以上を森林が占めています。美しい山と溪谷を有すること、先人から受け継いだ歴史と文化などの地域資源、温かい人と人とのつながりが強みです。

また、昔から市内各地に梅が植えられ、市民に親しまれています。梅は、本市にとってシンボルであり、誇りでもあります。「梅」を由

来とする名称は、全国約1700ある自治体のうち本市だけです。社寺などの建築物、青梅宿の情緒が残るまち並みなど、歴史、文化資源にも恵まれ、多くの人に親しまれています。

標高929mの御岳山は、古くから霊山としてあがめられてきました。子どもから高齢者まで気軽に散策できる山として親しまれており、山頂にある関東随一の霊場・武蔵御嶽神社は、パワースポットとしても注目を集めています。

青梅といえば、青梅マラソンを思い浮かべる方も多いと思います。市民マラソン大会の「草分け」としても全国的に知られており、全国から約2万人のランナーが早春の青梅路に集います。昭和42年に始まり、開催回数は54回を数えています。



約2万人のランナーが早春の青梅路を駆け抜ける「青梅マラソン」

また、公営競技として競艇事業を行っています。私は、就任以来、高グレード競走の誘致をはじめ、売り上げ向上のために取り組んできました。こうしたことから近年の収益は非常に好調で、この繰出金の一部は、消防団の消防車両の更新や子どもたちが楽しめる公園遊具の整備に活用されています。

### 『日本一の梅の里』復活へ

本市にとって梅は、観梅として楽しむだけでなく、農業や観光にも大切な役割を果たしてきました。



苦難を乗り越えて生まれ変わった「梅の公園」

この厳しい試練を市民、事業者、行政などが一丸となり、梅の里の再生・復興に向けた取り組みを進めるとともに、ウイルスを抑えるための緊急防除策を講じてきた結果、平成28年10月、一部地域で条件付きながら再植栽が認められました。

その後、年々再植栽できる地域が拡大し、令和3年4月からは市内全域での梅の再植栽が可能になりました。

「ピンチをチャンスに変える」この言葉は、梅の里再生を果たすまで、私が一貫して述べ

中でも吉野梅郷地区は、2万5000本の梅が咲き誇ったといわれ、平成21年には日本経済新聞社による「おすすめの梅の名所ランキング」で日本一に輝くなど日本有数の観梅名所でした。

ところが同年4月、本市の梅から「ウメ輪紋ウイルス」という植物の病気が国内で初めて確認され、感染拡大を防止するため、市内各地で多くの梅樹の伐採を余儀なくされました。

てきた言葉です。

このピンチをチャンスに変え、本市が梅の里として再生し、再び多くの方が観梅を楽しんでいただけるよう、一歩ずつ着実に歩みを進めています。

### あそぼうよ！青梅

「あそぼうよ！青梅」は私自ら、積極的に発信している言葉です。

青梅という魅力に満ちあふれた場所です。暮らす人たちが、青梅に愛着を持ちながら、あそびを通じて地域と触れ合うことで、そこから地域の課題に関心を抱き、まちづくりへの参加を促す姿勢と、青梅を訪れる方々が、自然豊かな青梅であそぶことによって、青梅の魅力を感じ、青梅ファンとなり、青梅との関わりを持ち続けていただきたいという姿勢を表した究極の言葉です。

この言葉を基本姿勢として、さまざまなことに挑戦しています。

市長着任当時から重点的に取り組んでいる事業が、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）青梅インターチェンジ周辺の物流拠点整備です。

現在、この周辺は農業振興地域・農用地区域となっていますが、

このエリアは未知数のポテンシャルを有しています。本年は、市街化区域への編入や都市計画決定の告示を目指しています。今後、企業誘致などを行い、時代の先端を行く物流拠点を形成するとともに、新たな事業を創出する基幹エンジンとなるよう進めていきたいと考えています。

また、デジタル化への対応も急務となっています。行政サービス

の質を向上させるため、市民が市役所へ来庁せずとも各種申請ができる環境づくりに取り組んでいます。

本年は、新たな総合長期計画の策定の年でもあります。さまざまな課題が山積する中、「守り、受け継ぐべきもの」と「変えていくべきもの」との調和を図り、地域資源を活用した、持続可能なまちづくりを推進していきます。

### プロフィール

- ◆ 面積 103.31km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 13万932人
- ◆ 世帯数 6万4328世帯

〔将来都市像〕みどりと清流、歴史と文化、ふれあいと活力のまち 青梅

〔まちの特徴〕東京にありつつ、美しい山と渓谷を有する自然豊かなまち

〔特産品〕澤乃井、1秒タオル、藍染め、青梅生まれのブランド豚肉「TOKYOX」



青梅市長  
浜中啓一



〔観光〕御岳山、御岳渓谷、梅の公園、青梅宿、吹上しようぶ公園、吉川英治記念館、岩倉温泉郷

〔イベント〕青梅マラソン、吉野梅郷梅まつり、青梅大祭、青梅だるま市、蛍を見る夕べ、青梅宿アートフェスティバル、奥多摩渓谷駅伝競走大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。





国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」

に選定されるとともに、2050年までに市内のCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」への挑戦を宣言しました。サステナビリティーへの関心が高まるいま、今後も脱炭素社会の実現やSDGsに率先して取り組むとともに、この地域エネルギーを中心とした多様な主体との連携により未来を創造する「さりげない支えあい」のまちづくりを本市より進めてまいります。

## ウツクシマツ自生地を次世代へ

本市平松地域にある「平松のウツクシマツ自生地」は、国の天然記念物に指定されています。江戸時代には多くの人が訪れる観光名所として栄えるとともに、昭和56年には天皇陛下がお見えになるな

ど、郷土の歴史を守る文化財として大切に守られてきました。アカマツの一品種で美しい傘状樹形のウツクシマツですが、近年の自然環境の変動や枯れ被害が止まらず、本数が大幅に減少。樹齢100年以上ともいわれたシンボルツリーも惜しまれながらも伐採しました。そのような危機的状況の中、以前のような優雅な美観を取り戻すため、令和3年、地元などの協力により、自生地から採取した種子から生育した若木を自生地周辺へ移植しました。このほか、薬剤の地上散布や自生地を順応的に管理するための生育実験、地元小学生によるウツクシマツ自生地の保護学習など、本市のシンボルを次世代へと引き継ぐため、市と地元が一丸となって取り組んでいます。

## 行政から地域主体のまちづくりへ

本市は平成16年10月に石部町と甲西町が合併し誕生しました。令和3年には「第二次湖南市総合計画後期基本計画」を策定し、まちの将来像に掲げる「ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう きらめき湖南」の実現に向け、安定

した雇用の創出や移住・定住促進、時代に合った地域づくりなど、生涯住み続けたいところを目指す。これに伴い、まちづくり協議会や自治会といった地域運営組織やこれらの活動の見直しを行うとともに、市内の四つの中学校区を生活圏域とした医療、介護、福祉など、地域に密着した行政サービスを展開しています。

とはいえ、地域の課題を解決す

## プロフィール

- ◆ 面積 70・40km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 5万4562人
- ◆ 世帯数 2万4333世帯



湖南市長  
生田邦夫

〔将来都市像〕ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう きらめき湖南  
〔まちの特徴〕地域の中央に野洲川が流れ、自然環境や歴史文化豊かなまち、外国人人口比率が県内一  
〔市町村合併〕平成16年10月1日、石

るためには、行政だけでなく地域や民間事業者の皆さまの力が必要であり、行政に頼るまちづくりから、行政に頼られるまちづくりにシフトすることが求められます。行政サービスの集約と分散化を行いつつ、一人ひとりが力を発揮するともに、それぞれの地域課題に応じた住みよい地域づくりを實踐し、行政と地域が協働で取り組む「小規模多機能自治」を積極的に進めてまいります。



部町と甲西町が合併  
〔特産品〕下田なす、弥平とうがらし、地酒、近江下田焼、近江一閑張  
〔観光〕湖南三山、東海道五十三次石部宿、三雲城址、平松のウツクシマツ自生地（国の天然記念物）  
〔イベント〕さくらまつり、東海道石部宿まつり、冬の酒蔵ウォーキング、十二坊トレイルラン&ウォーク

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 可能性を切り拓くまちづくり

One MITOYO ～心つながる豊かさ実感都市～

香川県の西部に位置している三豊市は、平成18年1月に七つの町が合併し誕生しました。市の中央部の三豊平野には田園風景が広がり、北部から西部にかけては瀬戸内海と美しい島々を望める一方、南部から東部にかけては里山が連なり、雄大な自然が広がっています。



紫雲出山の桜

また、瀬戸内海に浮かぶ粟島は瀬戸内国際芸術祭の会場になっていることもあり、アートの島の一つとして世界的に注目されています。加えて、日本のウユニ塩湖としてSNSで人気が高



父母ヶ浜 (三豊市観光交流局提供)

まっている「父母ヶ浜」や、世界の絶景12選に選ばれた「紫雲出山の桜」などの絶景スポットには、県内外、さらには海外からも多くの観光客が訪れています。一方で、人口構造の変化、若年層の都市部への流出、そして新型コロナウイルス感染症への対応など、本市を取り巻く環境は近年厳

しさを増しています。本市では「三豊市第2次総合計画」に掲げたまちの将来像「One MITOYO ～心つながる豊かさ実感都市～」の実現を目指し、市民一人一人が安全・安心な暮らしの中で豊かさを感じ、夢や希望をかなえることができるよう、さまざまな施策に取り組んでいます。

### 宝山湖ボールパーク 夢いっぱいプロジェクト

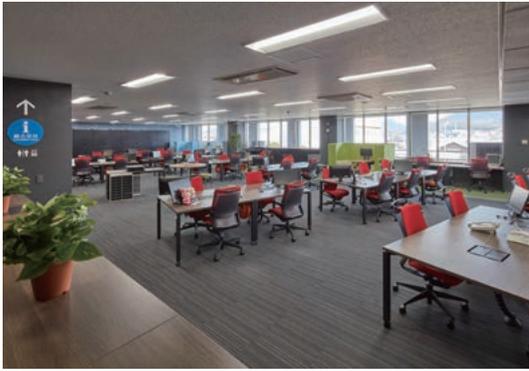
本市では、子どもの夢を育む「教育」、市民の健康づくりを目指す「ウェルネス」、そして地域活性化を創出する「ツーリズム」の三つのテーマを掲げた「宝山湖ボールパーク夢いっぱいプロジェクト」に取り組んでいます。官民が協働の下、スポーツを基軸に多角的な地方創生事業を展開すること

で、誰もが本格的に、また楽しみながらスポーツに夢中になり、健康増進や子どもたちの学びと経験につなげるとともに、地域外から本市への来訪のきっかけにも成り得る付加価値の高い施設を目指し、宝山湖公園のグラウンド整備を進めています。

「教育」の面ではJリーグクラブのカマタマーレ讃岐との連携により、宝山湖公園にクラブハウス機能を有する地方創生拠点施設を設置していただき、高水準の練習環境の下、子どもたちにプロによ



宝山湖ボールパーク完成イメージ



フリーアドレスを導入した三豊市役所2階フロア

が広く認識され  
てきました。こ  
のデジタル社会  
の実現のために  
は、市民にとっ  
てより身近な行  
政サービスを担  
う私たち基礎自  
治体の役割は極  
めて重要です。  
本市ではデジ  
タルファースト

## 「書かなくていい来なくていい市役所」を目指して

長引く新型コロナウイルス感染症の影響で一変した社会の中で、新たな未来を切り拓くために、社会全体の『デジタル化』の必要性が広く認識されてきました。このデジタル社会の実現のためには、市民にとってより身近な行政サービスを担う私たち基礎自治体の役割は極めて重要です。本市ではデジタルファースト

宣言を行い、ペーパーレス化や公文書の電子化を進める中で、その象徴として市役所2階フロアを全面リノベーションし、職員が自由に座席を選べるフリーアドレスを導入したオフィス改革を実施しました。このオフィス改革により、紙文書の量を約40%削減することができたほか、職員同士のコミュニケーションが活性化し、業務効率が高まりました。今後は市役所内の業務効率化とともに、市民に寄り添った行政サービスの向上に積極的に取り組んでいかなければなりません。そこで、令和3年4月からデジタル推進室を設置し、デジタルの力を最大限に活用した『書かなくていい来なくていい市役所』の実現を目指すとともに、市民の暮らしがより便利で快適なものになるよう検討を進めています。

## ミトヨで、やっぴんヨ。

人口減少が進む中、人口流出に歯止めをかけるためにも、ふるさと三豊を愛し、自らが関わって地域をよくしていこうとする「シビックプライド」の醸成が重要であると考えています。自分のまちで豊かさを感じ、まちを誇りに思

うことで、夢や希望が生まれます。そして、人は夢や希望を持つと動き始めます。この動きがあるとまちはから出ていきません。市民一人一人が豊かさを感じ、未来に向かって夢や希望を持ち、かなえることができるまちづくりを目指し、さまざまな施策に取り組んでいくとともに、「ミトヨで、やっぴんヨ。」と三豊で動き始め、チャレンジする人を全力で応援します。

## プロフィール

- ◆ 面積 222.7 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万2969人
- ◆ 世帯数 2万6090世帯

〔将来都市像〕One MIYOYO（心つながる豊かさ実感都市）

〔まちの特徴〕地域で築き上げられてきた歴史や文化に育まれた市民の力で、豊かさにぎわいがあふれるまち

〔市町村合併〕平成18年1月1日、高瀬町、山本町、三野町、豊中町、詫間町、仁尾町および財田町の7町が合併



三豊市長  
山下昭史

私たちを取り巻く社会情勢は今、すさまじい速さで変化しています。私たちはまちづくりを進めていく中で、周辺で起こっているあらゆるものに対し、備え、順応しなければなりません。そのためには、今までのような行政の取り組み方ではその変化に対応できないと考えており、社会課題に臆することなく攻めの姿勢で果敢に取り組めます。

〔特産品〕ミカン、ブドウ、桃、オリブ、マーガレット、三豊なす、高瀬茶など

〔観光〕父母ヶ浜 紫雲山、荘内半島、栗島、志々島、津嶋神社、フラワーパーク浦島など

〔イベント〕津嶋神社夏季大祭、仁尾竜まつり、たくま港まつり、とよなか秋のまつりなど



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。